

領域別実習での学び

○その人らしさを支える看護実習Ⅰ(周手術)

手術前、手術後の観察や、早期回復に向けた援助など、患者さんの循環動態が現在どのような状態なのかをアセスメントし、患者さんを捉えていく事が重要になってくると感じました。手術中の患者さんの様子から、手術後に起こりうる合併症なども視野に入れながら、援助を考えていく事がとても大変でしたが、手術見学など、貴重な経験をさせて頂いたことで、より、疾患、解剖生理に関する知識が身についたと感じています。

○その人らしさを支える看護実習Ⅱ(慢性)

患者さんが病気により出来なくなったことではなく、出来ること、大切にしていることに目を向けていく事が大切だと感じました。患者さんがその人らしく回復し、日常生活を取り戻していく事が退院していくにあたって、重要なことなのではないかと考えました。患者さんによって、痛みや、苦痛、不安の表出の仕方は様々で、その時々の患者さんの言葉や態度を観察し、想いを察し、それに合った関わりを考え、行動していく事が大切であると学びました。

○その人らしさを支えるⅢ(緩和)

患者さんが感じている苦痛は、患者さんにしか分からないものであり、私は、ただそばに居ることしかできないのではないかと考えましたが、患者さんが「生きたいと」伝えていただいた以上は、どのような状態であっても支えていく事が私たちの役割であると考えました。緩和ケアの実習ではほかの実習よりも、患者さんの時間を共に過ごしていくことが出来たと感じています。



○その人らしさを支えるⅣ(精神)

患者さんと関わっていく上で大切だと感じたことは「否定をしない」ことです。どのような状況であっても患者さんがその時に抱いている感情は受け止めていく姿勢が重要だと感じました。患者さんとのコミュニケーションがうまくいかず、行き詰まってしまうこともありましたが、患者さんのペースを尊重し、信頼関係を構築していく事が大切であると学びました。

○地域での暮らしを支える看護実習

利用者さん自身、家族の方が地域で暮らしていく為の工夫や、生活していく上での価値観を伺い、感じ取っていく事の必要性を学び、利用者さんの生活状況、身体状況から、どのような援助を行っていくべきなのか、地域での実習を通して、自分自身の観察の視点が広がったと感じました。

○生命の育みを支える看護実習(母性)

妊婦、産婦、新生児、褥婦、というように対象が変わっていく為、それぞれの日数に応じた身体的变化を捉えていく事がとても大変でした。現在の状態を整理したうえで、回復に向かって正常な経過をたどっているのか、アセスメントしていく必要があったので、対象に応じた知識の整理が求められると感じました。1日1日の観察がとても重要になってきますが、実際に日々の変化を観察し、情報収集していく事はとても楽しかったと感じています。

○成長発達を支える看護実習

患児の成長発達に合わせた関わり、声掛けが大切であると学びました。日々の関わりを通して、その子がどういった成長過程を送り、どの発達段階にあるのか、その子自身を知っていく事が今後の援助や、信頼関係に直結していると感じました。小児の実習では、保育実習もあるので、様々な視点で、小児について学んでいく事ができると思います。